

それでも、かすみがうら市をあきらめない！ 市民の手で未来をひらこう



元かすみがうら市議会議員 **みやじま謙** 活動報告

つばさ通信

第15号

本気の子育て支援をいますぐに！

7月8日に行われたかすみがうら市長選挙では、私みやじま謙に8550票もの投票をいただきましたが、私の実力不足で残念ながら落選となりました。
しかしこれで、かすみがうら市の将来をあきらめるわけにはいきません。
これからさらに進む少子高齢化、人口減少問題に対応するには、もっと積極的な子育て支援がどうしても必要なのです。

深刻なまちの将来像

少子高齢化と人口減少問題が取りざたされて、ずいぶんと月日が経過しました。しかし、国政においても地方行政においても、その対策にいまひとつ本気度が感じられません。
かすみがうら市に関する最新の推計では、約30年後に今の人口から約30パーセントが減少し、3万人を切つて

しまうそうです。

駅周辺の市街地の人口がいくらか増えることを考えると、農村部は半減でしょう。しかもそのほとんどが高齢者。介護が必要な市民が、駅から遠い地域に住み続ける。人口減少で税収も減り、行政サービスも悪化します。
力のある人たちが他の地域へ移住してしまえば、まちの荒廃はいっそう進んでしまいます。

こんな未来、絶対に見たくありません。だからこそ、もっともつと本気で対策を講じなければならぬのです。

次世代育成は社会の責任

子育て支援にはふたつの意義があります。そのひとつは「次世代育成は社会の責任」であるということです。日本はこれから、福

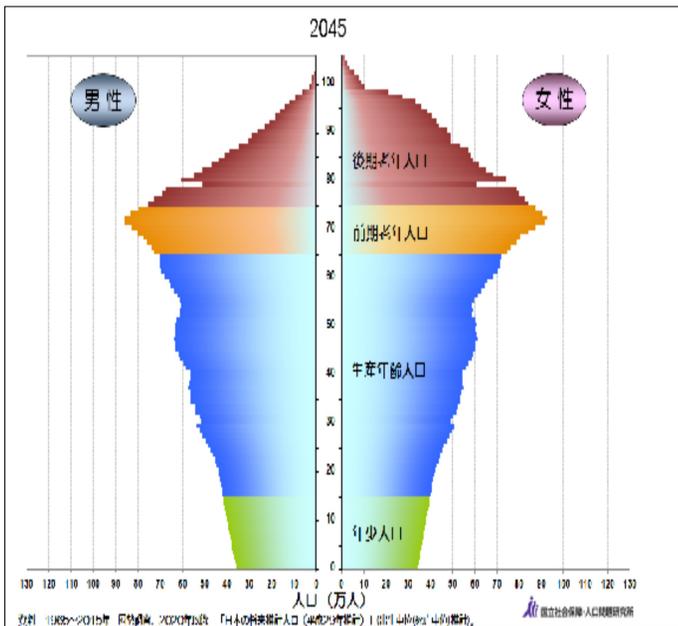
祉サービスを必要とする高齢者の数に比べ、それを支える若い世代が減り続け、かつ先細りで、日本人の未来は危機的状況です。

これを是正するのは、もはや個人の力では不可能です。社会全体として次世代を生み、育てやすい環境を整えて、日本の未来を広げていかなければならないのです。これは社会的な責任です。

子育て支援は未来への投資

もうひとつは、子育て支援をする

て支援をすることで、働く世代をまちに呼び込むことです。経済的に苦しい子育ての時期に行政がサポートをすれば、その家族は子育てを終えた後20年、30年の長きにわたり、今度は支える側として多くの税金を納めてくれます。つまり子育て支援は財政的な未来への投資とも言えるのです。
働く世代、そして子どもたちがこれ以上減れば、高齢者の支援さえできなくなります。躊躇している時間はありません。もっと危機感をもって未来を見つめるべきなのです。



2045年の日本の人口構造。（出展：国立社会保障・人口問題研究所）

一緒にまちづくりを考えませんか？

これからのまちづくりには、市民の参画が欠かせません。行政は地域によって異なるニーズをしっかりと受け止め、地域に合った施策を投じていく、そんな仕組みを作っていくべきです。

みやじま謙後援会では、かすみがうら市のまちの将来をともに考え、提言していく仲間を募集しています。ぜひご入会ください。

みやじま謙後援会 TEL. 029-896-1278



乗り合いタクシー廃止の方向へ 高齢者の外出支援を急げ！

予防介護、予防医療の対策を

弱者切り捨ての政策

かすみがうら市で運営されているデマンド型乗り合いタクシーは、

運転免許証を持たない高齢の皆さんの移動手段として頼りにされてきました。しかしここ数年、予約拒否が増え

ており、苦情が寄せられていたことも事実です。もつと使いやすく、多くの人が利用できるように改善が求められて

いました。しかし、その乗り合いタクシーが、再来年の3月で終わってしま

うって、ご存知ですか？

地域公共交通会議で『かすみがうら市公共交通再編実施計画』の最終案がまとめられて

おり、平成31年度末で乗り合いタクシーは廃止し、代替策として、60歳以上で運転免許証

を持たない方を対象に、1回500円のタクシー助成券を年間72枚（月6枚）支給するという

のです。駅までタクシーで3000円以上もかかる地域も多い当市で、1回500円の助成では、とても日常の足には使

えません。これでは交通弱者、高齢者の切り捨てと言われても仕方ありません。

廃止ではなく改善を

廃止の主な理由に挙げられているのが「利用者が減っており、限られた人ばかり利用している」というものです。

しかし現実には、ここ数年登録者数は増えていきます。つまり、使いたい人は多いのに運営の仕方に問題があつて、

使える人が少ないというのが実態なのです。特に2年ほど前に、

常磐線を超えての運行を中止し、それまで2時間ごとに1便運行していたものを1時間ごとに変更したため、遠くまで迎えに行けなくなり、単独利用が増え

てしまったことが利用者減の大きな要因となっています。予約拒否が急激に増えたのも、これが原因です。

乗り合いタクシーは廃止するのではなく、利用しやすいように仕組みを改善していくべきなのです。

高齢の方の移動の足の確保は、健康維持に欠かせません。予防医療、予防介護の観点から、気軽に外出できるサポートをもっと積極的にすべきです。

外出支援は財政的プラス

外出できずに家に引きこもってしまったら、気分はふさぎ、足腰は弱くなり、やがては医療や介護が必要となるでしょう。認知症のリスクも高まります。そうなる前に、本人はもちろん不幸ですし、支える家族も大変です。そういう方が増えれば、市の財政も大きく圧迫することになります。

それよりは、気軽に外出できるような環境を整備して、心も身体も健康でいられるよう

にお手伝いすることのほうが、社会的にも大きなプラスです。もちろんご本人もご家族も幸せです。乗り合いタクシーに限らず、長期的な視野に立った政策の実行が求められます。

明日への思い

先の市長選挙では、多くの皆さんからご支援をいただき、これまでの人生でこれほど感動した経験はありませんでした。

にも関わらず私の努力不足、実力不足のために皆様のご期待にそえない結果となり、心苦しい思いでいます。

敗因はさまざま考えられますが、特に予想外だったのが投票率の低さでした。8年前が約62%、4年前が約68%、そして今年が約56%。

近年、新聞の購読者数が減り続けていることも考え合わせると、市民の関心が社会から急激に離れているのではと危惧してしまっています。

市民一人ひとりの意識が変われば、政治が変わり、まちが変わります。そのことをどう伝えていくか、今後の課題です。

TOPICS

フードバンク活動にご協力を！

私も会員の「食の助け合い」活動を行うNPO法人フードバンク茨城の食品寄付箱「きずなボックス」が、市内には2か所設置されています。千代田シヨッピ

ングモールの農協そば店舗前（11〜14時・水曜定休）と、あじさい館受付前です。

フードバンクとは、賞味期限内でまだ食べられるにも関わらず、包装ミスや返品など、様々な理由で廃棄されてしまう食品や、家庭で消費されずに残っている食品を寄付していただき、それを経済的に困っている方へ無償で提供する活動です。「きずなボックス」は、ご家庭から

の食品を入れていただく箱のことです。かすみがうら市はこれまで、多くの食品をフードバンクから提供されています。ですから、食品を寄付する側としても協力していただきたいのです。2か月以上賞味期限があり、常温保存できる未開封の食品（缶詰、レトルト、白米、麺類、お菓子など）を、ぜひ寄付してください。新規購入品も大歓迎です。



食品寄付箱「きずなボックス」

千代田と出島は鳥の両翼 心合わせて羽ばたこう！



みやじま謙の「創ろう！かすみがうら市新時代」 ブログ大好評配信中！